

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で事業所のスローガンを唱和して実践している	職員全員にアンケートを取って決めているホーム独自の年間スローガンをキッチンに掲示して、毎朝の朝礼で唱和し、日々の支援で実践している。職員は自分たちで決めたスローガンを良く理解し、率先して推進し、利用者が楽しい日々が送れるようにしている。また、外国から数名の特定技能実習生が勤務しているが、スローガンの意味も良く理解してケアに取り組んでおり利用者からも親しまれている。家族に対しては年度初めに発行されるお便り「いなば陽だまりだより」でスローガンを紹介する予定にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり利用者様が直接外部と接触することは難しいが、地区のラジオ体操をホームの駐車場で行い、遠目ではあるが地区の方々と触れ合うことができた	開設以来、区費を納めており、地域の一員として活動している。コロナ禍が続き、活動が中止されていた地域の行事も昨年5月のコロナ5類への移行を受け少しずつ再開されつつあるので感染対策を取った上で参加し始めている。年1回行われる地域の草取り作業には管理者が参加している。また、昨年夏より当ホームの駐車場で行われる子ども達のラジオ体操も再開され、利用者も交流を楽しみにしている。合わせて今年の春には地域の春祭りも再開される予定で、「子供神輿」の駐車場への来訪も予定されている。また、隣にある地区の公民館での行事の際には公民館利用者が当ホームの駐車場に車を止めて親しく挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域の方に向けた発信は難しいが、いずれ行えるよう準備したい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面による開催に戻し、区長さんや民生委員の意見を活かしている	長い期間書面での開催が続いていたが、昨年10月より対面での運営推進会議が再開された。区長、民生委員2名、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が出席し、併設の小規模多機能型居宅事業所と合同で2ヶ月に1回、偶数月に開催している。活動報告、活動報告に対する評価、意見や要望、それらについての考え方・取り組み方についての説明後、地域からの情報提供、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。これからは家族の参加も進めて行く予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護事故報告書の提出や措置入所されている利用者様の入金や情報などを密に伝えています	市高齢者活躍支援課には事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じて報告・連絡を速やかに行っている。地域包括支援センターとは入居相談等で連携を取り合っている。また、現在、措置入居されている方がおり、後見人が見つかるまで市保健福祉部と連携を取り進めている。介護認定更新調査で調査員がホームに来訪した際には、職員が対応している。	

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け委員を中心として身体拘束をしないケアに取り組んでいる なお、玄関は離設による人命保護の観点から施錠を行っている	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。 玄関は安全確保のためテンキーでの開閉を行っているが、利用者の希望でいつでも対応することができる。外出傾向の強い利用者があるが、話を聞いたりホームの周りを散歩して対応している。また、食事の時やおやつ時には全利用者を食堂に誘い人数確認を行うと共に、夜間は、3時間に1回、所在確認を行い、安全確保に繋げている。更に転倒・転落の危険のある方がおり、家族に話した上で、安全上、人感センサーを使用している。年2回行われる身体拘束に対する研修会と3ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め、拘束ゼロに向けた支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修において虐待防止の研修を行い虐待を未然に防ぐ努力をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度について学ぶ機会が少なかったが、今後成年後見人をつける予定の利用者様が入居されており、活用に向けて学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族の不安や疑問がないよう丁寧な説明を心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時面会を会議室で行えるようになり面会の際意見、要望を伺っている	家族の面会についてはコロナ蔓延中は自粛したり、窓越しでの面会を行っていたが、現在、事前に連絡を頂いた上で、人数は4名までとして30分を目安に対面での面会を行っている。月に2～3回来訪する家族もあり、利用者や家族と相談している。その際、職員は家族等から意見、要望などを聞いている。そうした中、ホームでの生活の様子は、毎月発行されるお便り「いなば陽だまりだより」でお知らせし、利用者一人ひとりの様子についても担当職員より手書きの手紙でお知らせして喜ばれている。特定技能実習生も担当する利用者を持っており、管理者に相談しながら毎月手紙を作成して家族に届け、家族から名前も覚えていただいて、面会時には気軽に声を掛けていただき感謝されている。コロナ前に行っていた家族会も中止の状況が続いているが、来年度は感染状況を見ながら敬老会に合わせて開催したいという意向を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回の社内アンケートや半年に一度の個人面談を実施して職員とのコミュニケーションを図り、今後の運営に反映させている	月1回、本社の会議の後を受けて月末に全体会議を開いている。本社からの連絡事項、行事計画、利用者一人ひとりの状況確認、各種研修会、意見交換等を行っている。合わせて、月1回ユニット会議も行い、サービスの向上に繋げている。欠席者には議事録を回覧し、情報共有に努めている。法人として人事考課制度があり、職員は年間目標を立てて自己評価を行い、年2回管理者による個人面談が行われて、モチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長が交代し、職員満足向上へさらに力をいれている。年間休日を増加し有給休暇も取得しやすい環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度りモートではあるが様々な研修を実施しており職員のスキルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修を必要に応じて参加し、サービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面会し本人の希望、不安や心配についてお聞きし、入居後のケアに活かせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の要望に耳を傾け、今後良い関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望を聞き、それに即したサービスを提供できるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の趣味や生きがいを大切にして寄り添っていけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の利用者様に対する思いを共有し支えていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会議室ではあるが面会はできるようになったので、ご家族様の意向に合わせて面会を実施している	家族から連絡を頂いている友人、お孫さんなどの面会があり、利用者と歓談している。また、在宅時から信仰上で親しくしていた友人の面会を受け入れている利用者があり、旧交を温めている。使い慣れた「日用品」や好みの「お菓子」等、利用者の希望の物は職員が買い物してお渡ししている。理美容については2~3ヶ月に1回、顔なじみの訪問美容師が来訪しカットしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で自由にかかわれるよう場面の設定を作り提供している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも必要あれば連絡を取り、相談や支援を行うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行動やしぐさなどを職員が観察して利用者様の意向をくみ取っている	半数ほどの利用者が自分の意思を伝えることが難しい状況であるが、問い掛けに対する表情や仕草より意向を受け止めるようにしている。また、職員は利用者一人ひとりの食事等の好みを把握しており、希望に沿えるようにしている。そうした中、食べ物、飲み物、洋服選び等は二者択一での提案を行い、希望に沿えるように取り組んでいる。また、耳の不自由な利用者に対しては耳元ではっきりとした口調で話し掛けるよう心掛けている。日々の生活の中で気づいた事柄はタブレットの個人記録に纏め、申し送り時に確認して日々の業務に入るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や本人から情報を収集してサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の様子を観察し、できる範囲の把握に努めている		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が面会に来た時など現状の報告をし、職員とご家族で話し合い介護計画に活かしている	職員は1~2名の利用者を担当し、日々の状況把握、居室管理、家族への手紙の作成等を行っている。家族の希望は電話や面会時に伺い、カンファレンスの席上で意見を出し合っており、モニタリングも行い、担当職員と計画作成担当者がプランを作成している。入居時は家族から聞いた情報を参考に、暫定で2~3ヶ月のプランを作成して様子を見て、6ヶ月のプランに切り替え、状態に変化が見られる時には随時の見直しを行って、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の変化を職員が記録し、職員同士が意見を出し合っており介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望や職員の気づきなどを通して様々なケアに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流がだんだんできるようになっていくことを想定し、利用者様が楽しんでいただけるよう計画している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の医院が協力医として密接にかかわっていただき、なにかあればすぐに対応していただける体制を整えている	入居時に希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。常勤看護師が1名在籍しており、利用者一人ひとりの状況を把握して協力医との連携を密に図っている。内科以外の科目については必要に応じて受診と往診で対応している。薬の管理は看護師が個々に分けて管理ボックスに収納し、職員がチェックをして一日分をその日のボックスに収め、配薬時に再度チェックするというダブルチェックを行って、間違いのないように進めている。歯科については必要に応じて協力歯科に職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が気づいたことを逐一看護師に伝え指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送の際は日頃の様子や既往歴などが記されたファイルを持参し病院関係者に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	このホームにおいてできることをご家族に説明し、納得をいただいた上で今後についてご家族と話を進めていく	重度化した際の指針があり、利用契約時に説明して同意を頂いている。入浴や食事を摂ることが難しい状況となり終末期を迎えた時には、家族、協力医、看護師、ホーム職員で話し合いの機会を設け、家族の意向を確認した上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に看取りの方はなかったが、年1回、管理者と看護師が講師となり看取り研修会を行い、看取り支援に向けて備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応の研修を行っており、研修を通して事故発生時の訓練としている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と災害訓練を行い火災や水害が起こった際の動き方を訓練している	年2回防災訓練を実施している。9月、3月の年2回、火災想定で利用者全員が駐車場まで移動しての避難訓練と通報の模擬訓練を行っている。また、5月と10月には水害想定での避難訓練を行い、職員がハザードマップを見て指定避難場所の「東和田運動公園」までの避難経路の確認と避難時間の確認訓練を行った。その結果、移動時間がかかり過ぎ、危険が伴うことが予測されるため、区長に相談して隣の公民館の2階への避難についての協力をお願いしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者様に対し、人としての尊厳を損なわず思いやりのある声掛けを行うよう指導している	利用者が発する言葉を聞くことを心掛け、本人が納得され理解できるような声掛けをすることに努めている。言葉遣いにも気配りをして、丁寧に親しみを込め接するようにしている。また、トイレ介助、入浴介助の際にはドアを閉め、プライバシーにも配慮している。更に、利用者の意向に合わせて入浴介助の際には同性介助を心掛けている。呼び掛けは苗字と名前を「さん」付けでお呼びしているが、女性の利用者は名前でお呼びしているケースが多い。また、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを行うように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の発言に耳を傾け、本人の希望や意思を尊重できるような声掛けに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、希望に寄り添ったさりげない気遣いを行えるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な方はご家族に依頼して化粧水などを持ってきていただき、日頃から身だしなみを整えていただける配慮をしている		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食器拭きや皮むきなど利用者様にあつたお手伝いをして頂いている	見守りを受けつつ自力で摂取している方が大半で、全介助の方が若干名となっている。2名の調理専門職員が、昼食、夕食は調理し、朝食は職員が調理して提供している。献立は配食会社から届けられる季節感も加味された食材を用い、一部アレンジして調理している。そうした中、月2～3回はお楽しみの日を設け、パン食や余った食材を利用して0円食堂の日を設け、工夫した料理を楽しんでいただいている。誕生日にはケーキと好きな物を提供し、敬老会では刺身や天ぷら等を楽しんでいる。また、利用者は力量に合わせ、野菜の皮むき、食器拭き、テーブル拭き等のお手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際食事量などをチェックしていつもと変わったことがないかどうかどう支援すればより良い食事ができるか考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホール脇の洗面台にて口腔ケアを行いご自身で行えるよう職員が見守りをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身でトイレの訴えができない利用者様には本人の様子を観察して職員が適切にトイレ誘導ができるように努めている	自力している方が三分の一、一部介助の方が三分の一強、全介助の方が三分の一弱という状況である。排泄表を参考に、起床時、食事前、おやつ時、就寝前の定時誘導を行い、合わせて様子を見ながら早めに誘って、気持ち良く過ごしていただけるようにしている。排便については3日間ない場合はコントロールを行い、利用者の好みに合わせてお茶を中心にコーヒー、スポーツドリンク等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組んで、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不快感をなくすために排便チェック表を用いて各利用者様の排便を促す努力をしている。場合により主治医による下剤の処方を受けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴は原則として週2回だが、利用者様の気分や体調をみて日を入れ替えるなど柔軟な対応をしている	見守りを受けながら自立している方が若干名、一部介助の方が三分の二強、シャワー浴の方が数名という状況である。基本的には、週2回、入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが、足湯で対応したり誘い方に工夫をして入浴していただいている。また、利用者からは「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活パターンを尊重し、睡眠時間も柔軟に対応している。部屋の温度や照明などにも気を配っている		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どの方がどんな服薬をされているのか一目でわかるファイルを作成し職員に周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技などを把握して、生きがいや張り合いをもって生活できるよう職員が工夫して提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人ごみでないとこなら外出許可が出たので桜や紅葉などを見にドライブに出かけている	外出時、独歩の方が数名、歩行器使用の方が三分の一、車いす使用の方が半数という状況になっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩し近隣住民と挨拶を交わしたり、ベランダに出てお茶を飲みながら外気浴等を楽しんでいる。昨年5月のコロナ5類への移行を受け、感染対策を取った上で人出の少ない所を選び春の花見、秋の紅葉見物など、ドライブを兼ねて外出し季節を感じている。来年度は感染対策を取った上で年間外出計画を立て季節に合わせて積極的に出掛ける予定としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使えるような商店への外出は未だ許可が下りないので、必要なものを職員が代わりに勝ってきている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしている利用者様もいて、生きる活力となっております。年賀状も職員が支援して書いている方もいらっしゃいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が生活しやすいようにわかりやすい案内やきれいな飾りつけをして季節感を出しています	玄関を入ると掲示板には写真入りで職員紹介がされている。東側の大きな窓から明るい陽ざしが差し込むホールは十分な広さが確保されており、数ヶ所に食事テーブルと大型テレビが設置されている。また、廊下の一角にはソファや談話スペースも確保されており利用者の寛ぎの場となっている。更に、外に出ると広いベランダと家庭菜園用の畑も設けられており、春から秋にかけて外気浴や夏野菜の栽培を楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が居心地がよいように思い思いの場所で過ごされています。気の合った方々とお話もよくされています		

グループホーム稲葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で落ち着いて休んでいただけるよう昔からなじみのあるご自身の持ち物をもってきていただき、要望があれば職員が飾りつけもお手伝いしている	十分な広さが確保された居室には洗面台と大きなクローゼットが備え付けられ、プライバシーに配慮された造りとなっている。家族と相談の上、使い慣れたタンス、衣装ケース、イス、テレビ等が持ち込まれており、家族の写真やぬり絵等ご自分の作品や職員から贈られた母の日のお祝いメッセージカード等に囲まれて、思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様ができることを職員が把握し、その方にあった誘導の仕方を職員同士が共有している		